

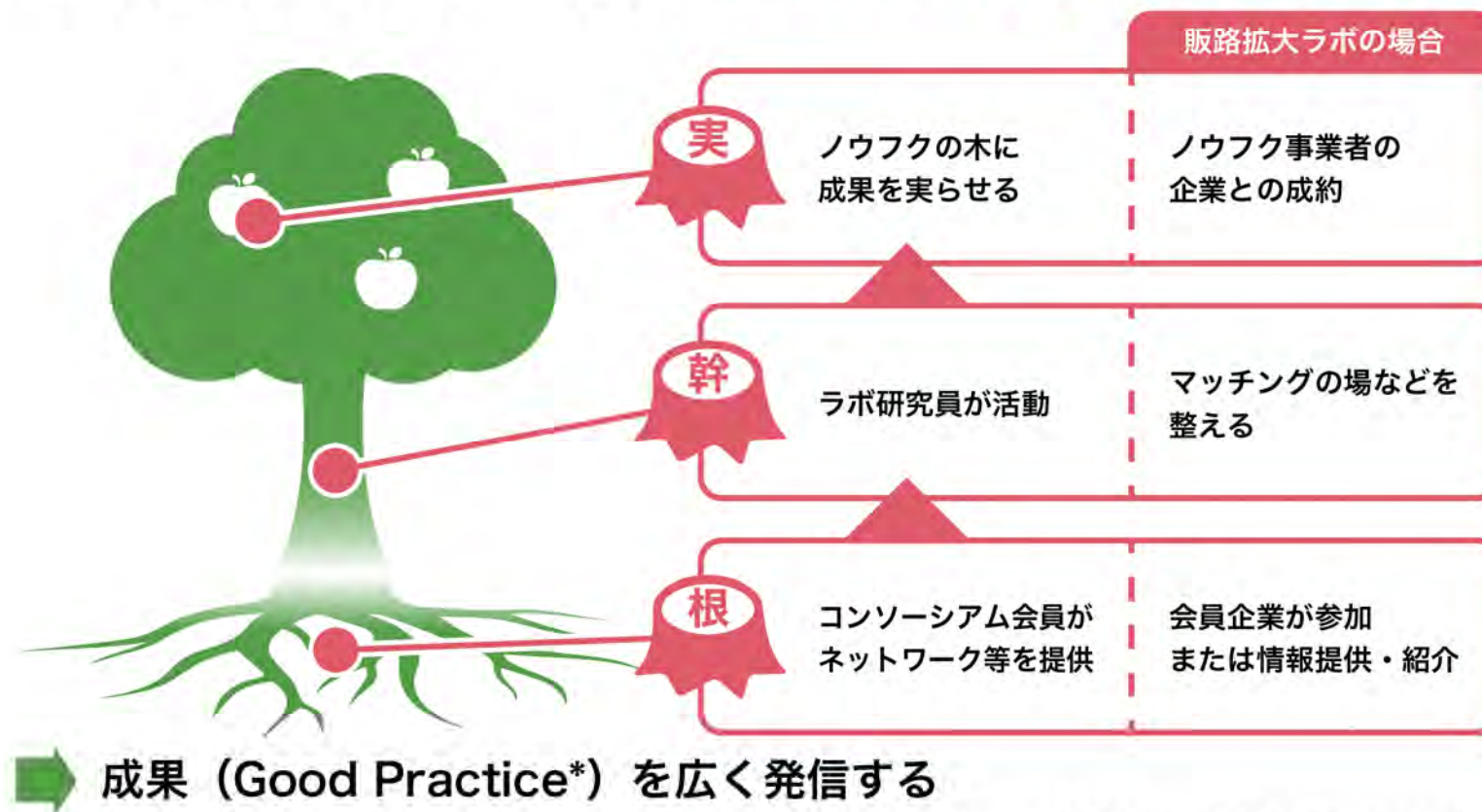


最終更新：令和4年8月2日

ZESDA
innovation from Japan

 **日本基金**
JAPAN FUND

今年度のノウフク・ラボ—アウトプットとして成果を生む



*社会問題を解決するための技術革新やビジネスモデルの変革のこと。

活動内容と運営スケジュール(予定)

活動内容

1 報告会

年に2回

2 ワークショップなどを通じた実践型の活動

3 情報共有

コミュニケーションツールLINE OPENCHAT など

4 情報発信

運営スケジュール(予定)

8月

キックオフミーティング

- ・ノウフク・ラボとは
- ・1年間の研究テーマの紹介
- ・チーム分け・自己紹介など

8月 22日(月) 13:30～

テーマごとの研究員募集・情報共有など (LINE など)

9月

研究員が参加するワークショップなどを通じた実践型の活動

12月

ノウフク・ラボ 中間報告会(対面形式)

2月

ノウフク・シンポジウムでの発表

*ワークショップは、研究員が全国各地にいることなどを考慮して原則オンラインです。今年度は、「現場」重視の実践型(マッチングや実証実験)で成果を出すことを念頭に活動するため、ワークショップは必要に応じて開催します。

今年度のノウフク・ラボ 3 テーマ

ラボ 01 トイレ

安心できる作業環境を



Why

ノウフク・アワード 2020 表彰式後のトークセッションでクローズアップされたトイレ問題は、農福連携の活動領域が広がる中で喫緊の課題です。

How

2021 年度のトイレラボを継続し、導入に向けた議論を加速化。トヨタの協力も得て車載型トイレや環境負荷の少ないトイレなどをアンケートをもとに検討し、結果を公表します。

With

専門家や自動車メーカーなど

ラボ 02 テクノロジー

ノウフク×テクノロジーの可能性



Why

テクノロジーにより障害者の就労環境が改善されることが期待されます。2021 年度のラボでは、バイタルセンサーによる熱中症予兆検知が障害者だけでなく、職員や農家にとっても有効だとわかりました。生産性第一のテクノロジーではノウフク関係者のやりがいや安全性の確保などは難しいです。

How

生産性よりもやりがいやノウフク現場の安全性が高まるテクノロジーを特定すべく、ノウフク現場や IT 企業など多様な意見をまとめて公開します。

ラボ 03 販路拡大

「万良し」の販売戦略を



Why

価格の設定や商品の質、生産量の不足、一般の流通に乗せられないなど販売に関する課題は多いです。

How

2021 年度のショップラボを販路拡大ラボとして引き継ぎ、作成した営業ツール等を活用したり、ノウフクマルシェやノウフク座談会と連動したりして流通業者やその先の生活者に訴求します。座談会との連動では、取引の成否の背景を分析します。また輸出戦略について、専門家を呼んで検討。

ノウフク座談会

ビジネスに
結びつける



2021 年度のショップラボなどを通じて流通のプロと関わりができ、すでにノウフク製品の取り扱いに関心がある食品メーカーや小売業者などの紹介を受けています。

同年度に実施したノウフク製品の生産量調査を活用し、生産者と食品加工や流通の業者を集めた座談会を 3 回開く予定です。

Good Practice を生む基盤づくり